

CSRの取り組み

社会と響きあう 文化・社会貢献

サントリーグループの文化・社会貢献活動の原点は、創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神にさかのぼります。時代を見つめた文化・社会貢献のあり方を追求し続ける姿勢は、世代を超えて受け継がれており、「芸術・文化・学術」「スポーツ」「社会福祉」の分野を中心に、「次世代育成」「被災地支援」「地域貢献」「チャレンジド・スポーツ支援」「従業員ボランティアの推進」など多岐にわたる文化・社会貢献活動に取り組んでいます。すべての社会貢献活動で地域とのエンゲージメント活動を実施し、地域とのコミュニケーションを大切にしています。



芸術・文化・学術・スポーツ



社会福祉



次世代育成



地域貢献

SUNTORY

社会活動方針

サントリーグループは創業以来、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、さまざまな社会貢献活動に取り組んできました。グループ各社とともに、グローバルに社会的責任を果たすため、「サントリーグループ社会活動方針」を策定しています。



芸術・文化・学術活動

豊かな生活文化の発展に寄与する芸術・文化振興に加え、人文・社会科学や生物有機化学研究の推進にも取り組んでいます。



スポーツ活動

ラグビー・バレーボールといったスポーツの普及を通じて、健全な心と体の育成を支援し、地域に根ざした活動を展開しています。



社会福祉

創業からの「利益三分主義」の精神に基づき、事業の利益を社会に還元する慈善活動・社会福祉に現在も取り組んでいます。



次世代育成

次代を担う人づくりも企業の使命であると考え、子どもたちの成長を支援する多様な活動を展開しています。



被災地支援

国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や飲料水の提供、グループ体となった活動等を継続的に支援を行っています。



地域貢献

工場緑化を推進し、工場見学実施や従業員参加による美化活動など、地域に根ざした貢献活動を幅広く展開しています。



チャレンジド・スポーツ支援

創業以来のチャレンジ精神「やってみなはれ」のもと、「PASSION FOR CHALLENGE」を掲げ、チャレンジドスポーツ(障がい者スポーツ)のアスリートを応援する活動を行っています。



従業員ボランティア活動支援

“Growing for Good”へ向け誠実で信頼される人間として成長しつづけるため、ボランティア活動をはじめとした従業員の社会参加を積極的に支援しています。

目標達成：●●● 目標達成70%以上：●● 目標達成70%未満：●

| 重点項目 | 中期目標 | 2017年度の実績 | 2018年度アクションプラン | 評価 |
|----------------|---------------------------------|--|--|-----|
| 幅広い文化・社会・学術貢献 | 財団活動支援を通じた貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> 支援活動の継続 公益財団法人サントリー芸術財団、サントリー文化財団の活動支援を通じた文化・社会・学術貢献推進 | <ul style="list-style-type: none"> 公益財団法人サントリー芸術財団、サントリー文化財団の活動支援を通じた文化・社会・学術貢献推進 | ●●● |
| 地域貢献 | 自治体・NPOなどと連携した東北・熊本復興支援活動強化 | <ul style="list-style-type: none"> 「東北サンさんプロジェクト」、「水の国くまもと応援プロジェクト」における文化・芸術・スポーツ活動による支援活動推進 「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」による被災した水源涵養エリアの復旧工事ならびに地下水流動メカニズムの調査 義捐金・学生やチャレンジド・アスリートへの奨学金制度実施 | <ul style="list-style-type: none"> 「東北サンさんプロジェクト」、「水の国くまもと応援プロジェクト」における文化・芸術・スポーツ活動による支援活動推進 「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」による水源涵養対策の拡大 義捐金・学生やチャレンジド・アスリートへの奨学金制度実施 | ●●● |
| 社会貢献活動のグローバル展開 | エリアにおける社会貢献活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 「サントリー地域文化賞」による地域文化顕彰による地域活動支援 ベトナムでの次世代環境教育の拡充 他エリアでの社会貢献活動の展開開始（エスプラネード等） | <ul style="list-style-type: none"> 「サントリー地域文化賞」による地域文化顕彰による地域活動支援 ベトナムでの次世代環境教育のエリア拡大 他エリアでの社会貢献活動の展開（地域美化活動 等） | ●● |
| 次世代育成支援 | 文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援強化 | <ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツ・地域貢献活動を通じた次世代育成支援プログラムへの参加者拡大（参加者80,000名） | <ul style="list-style-type: none"> 文化・スポーツ活動を通じた次世代育成支援プログラムへの参加者維持・拡大（参加者目標80,000名） | ●●● |
| 従業員の社会貢献活動参加支援 | 従業員が社会貢献活動に積極的に参加できるように基盤づくりと推進 | <ul style="list-style-type: none"> サイト開設（ボランティアWEB）によるボランティア情報提供開始。 従業員向けのオリジナルボランティアプログラム実施 | <ul style="list-style-type: none"> サイト（ボランティアWEB）活用推進に向けた告知活動 「ボランティア月間」設定による、従業員の社会参加機会の積極的提供 従業員向けオリジナルボランティアプログラム拡充 | ●●● |

社会と響きあう 文化・社会貢献

社会貢献活動方針

サントリーグループは、創業精神「利益三分主義」のもと、地域社会への貢献や文化、芸術、スポーツ振興、被災地支援活動、環境活動などに積極的に取り組み、社会・自然との共生を図ってきました。サントリーグループの社会貢献活動はさまざまな社会的課題の解決に貢献するとともに、サントリーグループが展開する事業の持続的な発展にも寄与すると考えています。グループ各社とともにサントリーらしい活動を推進していくことで、グローバルにコーポレートブランドの価値向上を図っていきます。

サントリーグループ社会貢献活動

サントリーグループは、創業者の「利益三分主義」の精神を受け継ぎ、社是にいう“生命の輝き”をめざして、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、社会貢献に積極的に取り組んできました。

私たちは、企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」のもと、お客様に最高品質の商品・サービスをお届けするとともに、生活文化の豊かな発展と持続可能な地球環境の実現をめざし、グローバルに社会的責任を果たしていきます。

1. 「文化・芸術振興」「スポーツ振興」「社会福祉」「自然環境保全」「ダイバーシティ」「被災地支援」の分野を中心に、次世代育成の見地と地域の実情をふまえた活動を、従業員とともに推進しています。
2. ステークホルダーとの対話を重視し、連携・協働に取り組んでいます。
3. 従業員の多様なボランティア活動を支援しています。

社会と響きあう 文化・社会貢献

芸術・文化・学術活動

サントリーグループは、豊かな生活文化の発展に寄与するため、サントリー美術館、サントリーホールの運営をはじめとして、多様な文化貢献活動に取り組んでいます。

また人文・社会科学の学術研究助成や、生物有機化学の研究活動の推進も行っています。こうした活動を通じて、次代を担う国際的人材の育成も目指しています。

芸術・文化・学術の振興活動

■公益財団法人 サントリー芸術財団

1961年開館のサントリー美術館と、創業70周年記念事業として1969年に設立された鳥井音楽財団（1978年にサントリー音楽財団に改称）。ほぼ半世紀にわたって芸術分野で積み重ねてきたこの2つの活動を、創業110周年記念事業として1つに束ねるとともに、21世紀にふさわしい新たなかたちに革新すべく、2009年に設立されたのが公益財団法人サントリー芸術財団です。

また、2012年4月よりサントリーホールの運営へと事業領域を拡大し、ユニークかつ多彩な事業を通じ、日本の音楽・美術のさらなる普及と発展への貢献を目指しています。

サントリー美術館 —「美を結ぶ。美をひらく。」

サントリー美術館は「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館、日本美術やガラスを中心とした企画展と作品の収集活動を展開しています。2007年3月には六本木の東京ミッドタウンに移転。ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、国宝1件、重要文化財15件をはじめとする約3,000件の収蔵品を核に多彩な企画展を展開し、日本人の“美への感性”を後世に継承していく活動を続けています。「都市の居間」をテーマに建築家・隈研吾氏によって設計された美術館には、ショップやカフェ、さまざまなプログラムを開催するホール、茶室なども整っています。



サントリー美術館

六本木移転10周年を記念して展覧会・講演会などを開催

2017年は六本木開館10周年記念展として、絵巻愛好者たちに焦点を当てた「絵巻マニア列伝」や国宝《浮線綾螺鈿蒔絵手箱》を修復後初めて展示した「神の宝の玉手箱」、狩野派を確立した元信の初回顧展「天下を治めた絵師 狩野元信」、ヨーロッパ磁器最高峰の一つ、セーブルの挑戦の歴史を紹介した「セーブル、創造の300年」など、サントリー美術館ならではの5つの企画展を開催しました。

また、美術ファンだけでなく多くの皆さんに広く作品の楽しみ方を伝えることを目的に、さまざまな業界の第一線で活躍されている著名人と学芸員との対談形式による「プレミアムトークシリーズ」を開催し、いずれも人気を博しました。漆芸作家 室瀬和美氏、金工作家 大角幸枝氏など重要無形文化財保持者（人間国宝）をはじめとする伝統工芸作家が指導する工芸ワークショップ「おもしろびじゅつ教室」では、子どもから大人まで、日本の伝統工芸の素晴らしさや、ものづくりの楽しさを体感していただきました。



国宝《浮線綾螺鈿蒔絵手箱》



「狩野元信」展 ポスター

サントリー美術館ほか六本木界隈のアート情報をまとめた英語情報誌「Art & About Roppongi」の発行や、すべての展覧会で英語イヤホンガイドの貸し出しを行うほか、2017年には、英語による工芸ワークショップ「おもしろびじゅつ教室」の開催など、海外からのお客様にも楽しんでいただける取り組みも行っています。



英語情報誌
「Art & About Roppongi」



英語による「おもしろびじゅつ教室」

サントリーホール — 世界一美しい響きをめざして

サントリーホールは、1986年に東京初のコンサート専用ホールとして開館しました。偉大な指揮者である故カラヤン氏に「音の宝石箱」と評されたヴァンヤード形式の大ホールと、ブルーローズ（小ホール）の2つのホールで、国内外の一流アーティストによる演奏が繰り広げられています。毎年、年間約600を超える公演に、約60万人のお客様が来場されています。



サントリーホール

開館30周年後の大改修でユニバーサルデザインを推進

2016年10月12日に開館30周年を迎えたサントリーホールでは、2017年2月から8月まで休館し、大規模改修を行いました。“世界一の美しい響き”を大切にしながら、高齢者の方、障がいをお持ちの方にも楽しんでいただけるように段差なく客席までアプローチできるエントランスの増設、ホワイエから1階大ホールに移動しやすいスロープや多目的化粧室の増設など、ユニバーサルデザインを推進しています。

またリニューアルオープン直前には、サントリーグループの従業員が参加して、避難訓練付きコンサートを開催しました。安全管理の面でも、「世界一」を目指しています。



避難訓練付きコンサートの様子

開館から現在までの公演アーカイブが完成

開館時から現在までの公演情報をWEBサイト上で検索できる「サントリーホール公演アーカイブ」が完成、これまでサントリーホールで展開された数々の名演の歴史が検索できるようになりました。

WEBサイトでは、開館30周年に寄せて、70人を超える世界的なアーティストから送られたメッセージも紹介されています。



30周年記念
ガラ・コンサートカーテンコール



30周年に寄せられた世界中のアーティストからのメッセージ

音楽事業 — 音楽振興のための先進的な取り組み

日本における洋楽の発展に寄与するため、優れた業績をあげた個人または団体を顕彰する「サントリー音楽賞」や、チャレンジ精神に満ちた公演に贈られる「佐治敬三賞」、日本人の新進作曲家の優れた作品を公開選考会で選ぶ「芥川作曲賞」の贈呈、「日本人作曲作品」の紹介やコンサート助成など幅広い活動を展開しています。また、2014年からは、世界的文化遺産である弦楽器名器の保全と、貸与活動を通じた音楽家の育成を目的として、財団所蔵楽器を中高生に無償貸与する「サントリー芸術財団名器特別賞」や若手演奏家向け貸与を新たにスタートしました。



「サントリー音楽賞」「佐治敬三賞」
贈賞式

3つの音楽フェスティバルを開催

2017年は大規模改修のため、9月のリニューアルオープン後に、3つのフェスティバルを行いました。

ブルーローズ（小ホール）の親密な空間で室内楽本来の楽しみを伝える「サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン」。最先端の音楽を紹介する「サマーフェスティバル」は、2013年から新たに年毎のプロデューサーが現代の名曲の数々や多彩でチャレンジングなステージをお届けしています。芸術の秋を華やかに彩るクラシック音楽の祭典「サントリーホール・フェスティバル」には、世界中のトップ・アーティストが集いました。



サントリーホール
チェンバーミュージック・ガーデン2017



サントリーサマーフェスティバル
2017



サントリーホール・フェスティバル2017
ネルソンス指揮「ポストン交響楽団」演奏会

ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金

サントリー芸術財団はサントリーホールディングスとともに、被災地はもとより日本全国に活力を与えることを目的として、「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金」の活動を行っています。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と協働で音楽活動の助成や被災地での「こどもたちのためのコンサート」やジュニアオーケストラの指導、献奏など、多くの活動を展開しています。2017年は熊本地震復興支援として、熊本でも、ウィーン・フィルメンバーによる献奏を行いました。



ウィーン・フィル&サントリー
音楽復興基金献奏（熊本市）

■公益財団法人 サントリー文化財団

創業80周年を記念し、社会科学・人文科学分野の研究活動や、日本の地域文化の向上に貢献するために、1979年に設立されました。「サントリー学芸賞」や「サントリー地域文化賞」の贈呈、社会・人文科学や地域文化に関する研究や海外出版への助成、財団自ら実施する調査研究など、さまざまな活動に取り組んでいます。

近年では若手研究者の支援に注力し、「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」「若手研究者による社会と文化に関する個人研究助成（鳥井フェロー）」「外国人若手研究者による社会と文化に関する個人研究助成（サントリーフェロー）」などのプログラムを充実させています。「サントリー学芸賞」の受賞者は「政治・経済」「芸術・文学」「社会・風俗」「思想・歴史」4部門で、2017年までに329名を数え、それぞれの分野で第一人者として活躍されています。また「サントリー地域文化賞」の受賞団体は2017年に全国全都道府県209件におよんでいます。



「サントリー学芸賞」贈呈式



「サントリー地域文化賞」贈呈式

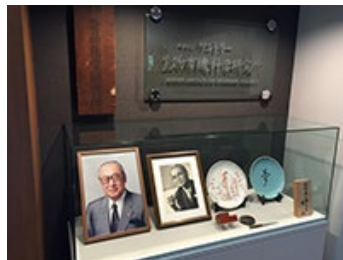


「若手研究者のための
チャレンジ研究助成」報告会

■公益財団法人 サントリー生命科学財団

サントリー生命科学財団は、国民の健康と栄養の向上を目的に、財団法人食品化学研究所として1946年に設立、1979年に財団法人サントリー生物有機化学研究所への名称変更を経て、生命科学と有機化学の融合領域である生物有機化学を基盤とする研究活動と学術振興を推進し、大学教授など、第一線で活躍する研究者を輩出してきました。

自らの研究所を「構造生物学」「有機化学」「分子生物学」の異分野融合拠点として位置付け、大学などの研究機関との共同研究を推進しながら「分子を中心に据えた生命現象のメカニズムの解明」を目指した研究活動に取り組んでいます。また、大学などの研究を支援する解析センター事業、若手研究者への研究助成、大学院生への奨学金、学術集会助成などの研究奨励助成事業、ならびに大学院連携講座の開設による研究・教育支援、博士客員研究員制度などの研究人材育成事業を行っています。



財団の歴史を紹介する展示



800MHz超伝導核磁気共鳴分析装置

最近、ゴマの健康成分「セサミン」とともにゴマ種子に含まれる抗酸化物質「セサモリン」および「セサミノール」の生合成酵素遺伝子を世界で初めて発見しました。また、葉の縁の凸凹の形を制御する遺伝子を明らかにしました。これらの他、多くの研究成果が著名な学術論文に掲載されています。



公益財団法人サントリー生命科学財団創立70周年記念
中西 重忠シンポジウム サントリーワールドフォーセンター 2016年8月27日

撮影：株式会社トミカラー

サントリー 1万人の第九

■ともに「歌う」歓びを広げる「サントリー 1万人の第九」

1983年、大阪城ホールでのオープニング記念イベントとしてスタートし、2017年で35回目を迎えた「サントリー 1万人の第九」。サントリーグループは、師走の風物詩である本コンサートに第1回から協賛しています。

1万人がともに「歌う」歓びやクラシック音楽の素晴らしさを感じられる機会として、レッスン会場を拡大し、小学生からシルバー世代まで幅広い年代の方々が参加するなど、地域を越え、世代を超え、ますます広がりをもったイベントとなっています。

また東日本大震災復興支援活動の一環として、2011～2013年は東北会場を設け、大阪城ホールと中継を結んで開催し、2014年には、岩手県・宮城県・福島県から150名を大阪城ホールへご招待しました。



サントリー 1万人の第九

社会と響きあう 文化・社会貢献

スポーツ活動

サントリーグループは、企業スポーツへの参加や、スポーツ振興のための活動にも力を入れています。チーム活動では、ラグビーとバレーボールの自社チームを組織し、リーグ戦に参加しています。両チームとも競技の普及活動を重視し、オフシーズンを中心にラグビークリニック・バレーボールクリニックを積極的に開催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

スポーツの普及活動

■ラグビー部「サントリーサンゴリアス」

社会人ラグビーチーム「サントリーサンゴリアス」は1980年に創部し、社会人ラグビーの全国リーグであるジャパンラグビートップリーグに加盟しています。2016-17シーズン、2017-18シーズンのトップリーグ・日本選手権とも優勝し二年連続、二冠を達成しました。スポーツを通じた健全な心と体の育成を支援するため、ラグビーの普及活動を積極的に行っています。毎年開催される「サントリーカップ全国小学生ラグビー選手権大会」への特別協賛も活動の1つです。2016年9月から行われた第12回大会では、日本全国から1万人を超える小学生が参加し、ラグビーを通じてスポーツの意義や楽しさを学びました。また、サンゴリアスの選手が直接指導するラグビークリニックも積極的に開催し、2017年は約3,000名の子どもたちが参加しました。なお、サンゴリアスは、社会貢献活動にも力を入れており、ラグビークリニックの開催や、地域の清掃活動などにも積極的に参加しています。2019年に日本で開催されるワールドカップに向けてラグビーの普及活動を強化し、子どもや女性など、多くの人にラグビーを知ってもらう新たな取り組みも積極的に行っています。



ラグビー部「サントリーサンゴリアス」



ラグビークリニック参加者



2017-18シーズン優勝

■バレーボール部「サントリーサンバーズ」

社会人バレーボールチーム「サントリーサンバーズ」は1973年に創部し、社会人バレーボールの最高峰で2018年10月に開幕する新リーグ（V. LEAGUE）のV1リーグに加盟しています。スポーツの楽しさを良さをより多くの方に知っていただくための活動として、バレーボールの技術指導や地域のバレーボール大会（2017年に第12回小学生大会、第39回中学生大会、第21回ママさんバレー大会を迎えました）の運営サポートなどの普及活動を行っています。またサンバーズの選手・スタッフが小中学生を中心に幅広い世代に直接指導するバレーボールクリニックには、2017年は約4,000名が参加しました。なおサンバーズは社会貢献活動も積極的に行っており、高齢者向けのボールを使った運動指導、警察と連携した青少年非行防止の啓発や防犯運動のサポートなど、多様な活動に協力しているほか、東日本大震災復興支援活動として岩手県や宮城県、熊本地震復興支援活動として熊本県の小中学生を対象にバレーボールクリニックを開催しました。



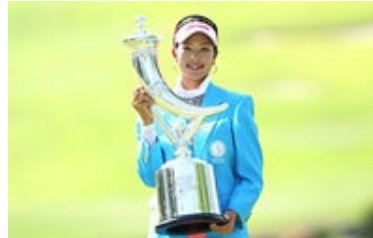
バレーボール部「サントリーサンバーズ」



地域を対象にしたバレーボールクリニック

■サントリーレディスオープンゴルフトーメント

毎年6月の第2週に神戸市で行われる日本女子プロゴルフ協会公認のサントリー主催女子ゴルフトーメント。また3日間トーメントが主流の国内において、メジャー大会同様4日間で争われることから、真の実力が問われるトーメントとも言われています。サントリーグループがスポンサーとして応援している宮里藍選手や森田理香子選手をはじめ、国内外のトッププレイヤーが優勝を飾っています。また、インターナショナルオープントーメントとして、未来を担う国内外のアマチュア選手に広く門戸を開き、若手育成を支援するとともに、チャリティ活動にも力を入れてきました。



森田 理香子選手（2013年大会優勝時）

■サントリードリームマッチ

「サントリー ドリームマッチ」は、1995年から“夢や感動を伝えたい”との想いから開催しているイベントで、これまでに延べ93万人を超える野球好きの方々に、“夢の球宴”を楽しんでいただいています。2017年8月に東京ドームで開催された第22回大会では、山本浩二監督率いる「ザ・プレミアム・モルツ球団」と、田尾安志監督率いる「東北・ジャパン ヒーローズ」が熱い戦いを繰り広げました。



当日の様子（2015年開催時）

■サントリーチャレンジド・スポーツプロジェクト

東日本大震災復興支援活動の一環として、2014年から「チャレンジド・スポーツ」支援を開始しました。アスリートへの奨励金や競技用器具寄贈などを行ってきたほか、東北の小中学校などで車いすバスケットボール体験教室を開催。累計4,000名以上に参加いただいています。

2015年からは公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会および一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟のオフィシャルパートナーとして、復興支援に留まらず、競技活動や大会のサポート、従業員によるボランティアなどに取り組み、さらに車いすバスケットボールのルール映像制作や、車いすバスケットボールのVR動画、アスリートの熱い想いをご紹介するWEB連載企画などを通じて、普及活動に取り組んでいます。創業以来のチャレンジ精神「やってみなはれ」のもと、「PASSION FOR CHALLENGE」を掲げ、これからもアスリートとともに挑戦していきます。



社会と響きあう 文化・社会貢献

社会福祉

創業者・鳥井信治郎は「利益三分主義」を唱え、事業の利益を社会に還元することを信念としていました。特に、恵まれない境遇におかれた人々への慈善活動、社会福祉活動に積極的に取り組みました。サントリーグループは社会のニーズの変化を見据えながら、現在に至るまで社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

社会福祉法人を通じた支援

■社会福祉法人 邦寿会

1921年（大正10年）、サントリーの創業者・鳥井信治郎が、社会奉仕への強い信念のもと生活困窮者救済のため、大阪市愛隣地区に無料診療院「今宮診療院」を開設したことから「邦寿会」は始まります。「邦寿会」という名前は、鳥井信治郎の妻・邦（クニ）の名と当時の社名「寿屋」の「寿」をとって命名されました。戦後の混乱期には、戦災者・海外引揚者・身寄りのない方のために宿泊施設などを提供し、その施設は、母子寮・養護老人ホーム・保育園へと受け継がれていきました。社会福祉法人として活動を続け、高殿苑（特別養護老人ホーム・1974年開設）、どうみょうじ高殿苑（総合福祉施設・2008年開設）、旭区西部地域包括支援センター（2011年4月に大阪市から受託）、つばみ保育園（1975年開設）を運営しています。

また、時代のニーズに応え、訪問介護・通所介護・居宅介護支援などの在宅介護サービスも力を入れています。2017年春、高殿苑、つばみ保育園は、新築移転にて竣工を終え、さらに特色のある快適な施設・豊かな感性を育む保育を目指しています。



特別養護老人ホーム 高殿苑とつばみ保育園



総合福祉施設 どうみょうじ高殿苑



高殿苑とつばみ保育園での交流

フードバンク活動に協力し、児童養護施設等に当社の商品を寄贈

サントリーグループでは、フードバンク活動に取り組んでいる「NPO法人 セカンドハーベストジャパン」を通じて2010年から児童養護施設や福祉施設、コミュニティセンター、被災地などに対して、清涼飲料をはじめとした食品約52,000ケースを寄贈してきました。寄贈する商品は、あくまで市販品と同じ品質であることを条件とし、その品質保証やお客様対応なども市販品と同様に行っています。2010年より首都圏で開始し、さらに2013年からは沖縄へも範囲を広げています。今後も、このフードバンク活動を継続し、必要に応じた数量を適宜お届けしていきます。



都内児童養護施設への寄贈

チャリティ・ボランティア活動の実施

■チャリティ活動

サントリーグループでは、チャリティイベントを通じた地域貢献活動を継続して行っています。また、全国の各事業所では、夏および歳末助けあい運動における募金活動などに、積極的に参加しています。

チャリティを通じた街づくりを支援

サントリーレディスオープンゴルフトーナメント

サントリーレディスオープンゴルフトーナメントは、1990年の開始以来、チャリティ活動に力を入れ、開催地の神戸市に消防車両などを寄贈してきました。また、2011年からは東日本大震災の被災地にもチャリティ金を活用いただいています。2016年は熊本地震・東日本大震災からの復興に向けた支援として、熊本県および宮城県名取市に計1300万円相当を寄贈し、防災対策や消防車両購入等に活用いただきました。



宮城県名取市に寄贈した消防車両

サントリードリームマッチ2017

1995年から開催しているイベント「サントリードリームマッチ」では、ビールや飲料、グッズ、チャリティシートなどの売上金や出場選手サイン入りユニフォームのチャリティオークション収益の一部を活用し、プロ野球の現役選手やOBによる野球教室・キャッチボール教室の実施など東北の野球復興に役立てられました。その他、東北在住の方を抽選で100名を無料で招待したり、売上の一部がチャリティとなる有料席「東北応援チャリティシート」の実施など東日本大震災の復興を応援しています。



東北から100名を招待



チャリティ金を活用した被災地での
キャッチボール教室

社会と響きあう 文化・社会貢献

次世代育成

サントリーグループは、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、音楽・美術・スポーツ・自然体験などを通じたさまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。

次世代育成をさまざまな活動で支援

子どもたちが音楽・美術・スポーツ・環境教育などのさまざまな分野で、本物や一流に触れる機会を提供しています。少子化が進み、次世代育成の重要性が高まる中、これらの活動を強化し、子どもたちの豊かな個性・人格形成を支援しています。



サントリーホールとサントリー美術館の共同企画
「アートキッズクラブ いろいろドレドレ」

■サントリーホール — 次代の音楽家・聴衆を育成

サントリーホールでは、子どもたちに一流音楽家による生演奏に触れていただき感動を経験してほしい、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという考えのもと、さまざまな次世代育成プログラムを企画・運営しています。日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会「こども定期演奏会」の開催や、港区立の小学校4年生を対象とした「港区&サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト」を2014年から継続的に行っています。そのほかにも、若手演奏家をウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーが直接指導する「ウィーン・フィル首席奏者によるマスタークラス」、演奏家や音楽業界での活躍を目指す若い学生を対象にした「レインボウ21」などのプログラムを実施しています。

「港区&サントリーホール Enjoy! Music プロジェクト」

港区とサントリーホールは、同区内の小学校4年生を対象に音楽を中心とした継続的な芸術体験プログラムを2014年から継続で行っています。国際的に活躍する指揮者・大野和士氏が企画にかかわり、2017年は「声の響きを楽しもう」をテーマに、事前授業と演奏会を開催しました。各小学校における2時間の事前授業では、サントリーホール オペラ・アカデミーから派遣するソプラノ・アルト・テノール・バス各1名の歌手が出演。声域の違いや声の響き（ビブラート）についてのデモンストレーションと、「もみじ」の歌唱、また1月のコンサートでベートーヴェン「第九」の旋律を原語で歌うための事前指導を行いました。2018年1月12日には、サントリーホールに港区立小学校4年生約1,400名が集まり、大野和士指揮による東京都交響楽団のコンサートを鑑賞しました。



小学校での事前授業の様子



サントリーホールでの
港区&サントリーホール
Enjoy! Music プロジェクト

「こども定期演奏会」の開催

子どもたちが定期的にコンサートホールに行く習慣を身につけ、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという願いをこめて、2002年から「こども定期演奏会」を開催しています。これは、日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会です。聴くだけでなく参加できることが特徴で、チラシの絵やシーズンのテーマ曲も子どもたちから募集・採用しています。また、オーディションにより選ばれた子ども奏者がオーケストラの一員として演奏できるプログラムをはじめ、楽団員のレクチャーのもとで楽器に直接触れる企画や子どもレセプション体験など、参加型企画の充実を図っています。



子ども奏者による演奏



楽器に触れる体験コーナー

サントリーホール 佐治敬三 ジュニアプログラムシート

若い世代へのクラシック音楽の継承を願ってやまなかった初代館長 佐治敬三の遺志を継いだプログラム。小・中学生を対象に各回ペア3組を大ホールでの土日祝日の対象公演にご招待しています。



佐治敬三ジュニアプログラムシート



■サントリー美術館 — 子どもたちが美術に親しむ機会を提供

いつでも子どものいる美術館を目標に、子どもたちが気軽に美に親しめるプログラムを提供し、楽しみながら美を愛する心を育む活動を幅広く展開しています。

「エデュケーション・プログラム」の実施

サントリー美術館は、ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、次世代への教育普及活動に積極的に取り組んでいます。中学生以下は入館無料のうえ、鑑賞支援ツール「わくわくわーくしーと」を無料で配布し、見どころをガイドするだけでなく、自由な発想で鑑賞を楽しむ心を育てます。お客様と美術館をつなぐ交流の場としてスタートした「エデュケーション・プログラム」では、美術初心者を対象に体験型ミニレクチャー「はじめてひらく 美のとびら」を開催するほか、毎週土曜日にはスライドを使ったわかりやすい展示解説「フレンドリートーク」などを実施しています。展覧会に関連する記念講演会や、特別公演なども開催。また、プログラムに5回参加した子どもたちを「美の達人」として認定する「フレンズ会員」制度を設けています。さらには、「スクール・プログラム」として、港区を中心とした小・中学校の児童・生徒の来館受け入れや出張授業にも積極的に取り組んでいます。



「はじめてひらく 美のとびら」シリーズ



学校団体のための「スクール・プログラム」

六本木開館10周年記念展「おもしろびじゅつワンダーランド2017」開催

デジタル技術とアナログ手法を駆使したさまざまな展示方法で日本美術を体験・体感・発見できる展覧会「おもしろびじゅつワンダーランド2017」を夏休みの時期に開催しました。2012年に続き第2弾となる本展覧会は、「ひらけ!美のとびら」を合言葉に、映像や音などを含めた空間全体で作品の世界を感じたり、デジタル技術を使ったインタラクティブな創作を体験するなど、日本美術と親しむ仕掛けを通してサントリー美術館の名品との出会いを楽しんでいただきました。



声を出して白い大徳利に「吹墨文」をつける



「切子」の美しさを映像とともに体感する

■スポーツを通じた子どもたちの育成を支援

サントリーグループは、スポーツを通じた子どもたちの健全な心と体の育成を支援するため、さまざまな活動を行っています。その一環として、サントリーのスポーツチームも競技の普及活動に取り組み、ラグビー部「サンゴリアス」・バレーボール部「サンバーズ」の選手が子どもたちを直接指導するクリニックを各地で開催しています。2017年には、17,000人を超える子どもたちが参加しました。その他、サンゴリアスは「サントリーカップ全国小学生ラグビー選手権大会」の運営サポートなど、子どもたちがラグビーに触れるさまざまな機会と協力を行っています。またサンバーズは小学校の授業で「体を動かす楽しさを知ってもらうためのボール遊び教室」の開催や、地域のバレーボール大会の運営サポートなどを実施しています。



ラグビークリニックの様子



バレーボールクリニックの様子

■学校法人 雲雀丘学園を通じた支援

鳥井信治郎が1950年に学校法人 雲雀丘学園の初代理事長に就任して以降、同学園の幼稚園から高等学校までの一貫教育を支援しています。鳥井信治郎は「親孝行」の気持ちを大切にしており、「親孝行な人はどんなことでも立派にできます」が口癖でした。その創立精神は受け継がれ、学園では現在も、「親は子の成長を願い、子は親に感謝し尊敬するという、人としての自然なところが基本となって、家庭の輪につながり、社会のために尽くす気持ちが湧き出る」と考え、人間教育に取り組んでいます。2008年からは「環境講座」の開講を支援し、現在は幼稚園、小学校の「花育(はないく)」や「水育」、中学校、高校の校外活動・特別授業・講演と体系的に環境を学ぶプログラムを実施、その活動を支援しています。



林間学校での植樹のようす

■無人島でのキャンプ体験で挑戦する心を育成

サントリーグループは香川県小豆郡にある無人島の余島(よしま)で1950年からキャンプ場を運営している公益財団法人 神戸YMCAと、2007年から協働で「余島プロジェクト」を推進しています。これは無人島ならではの豊かな自然環境の体験・体感を通じて子どもたちの夢や挑戦する気持ちを育むプロジェクトで、夏に開催される「余島サマーキャンプ」等、年間を通じてさまざまなプログラムを企画・展開しています。2017年は約4,300名の子どもたちが余島を訪れました。



余島サマーキャンプ



余島

■次世代環境教育「水育（みずいく）」

水の恵みを商品に活かしてお客様にお届けする企業だからこそ、貴重な水資源を未来に引き継ぐために、次代を担う子どもたちにサントリー独自のプログラム「水育（みずいく）」を展開しています。「水育」は子どもたちが水の大切さ、水を育む自然や森の大切さに気づき、未来に引き継ぐために自分たちに何ができるかを一緒に考えるプログラムです。「森と水の学校」と「出張授業」の2つを中心に活動を展開しています。2018年に活動開始から15年を迎えました。（後援：環境省、文部科学省）



水育「森と水の学校」



水育「出張授業」

■リアルな体験を通じて子どもたちの「職業観」を育成

サントリーグループでは、子どもたちが楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる、職業・社会体験型施設「キッズニア東京・甲子園」に、自動販売機の運営体験ができるパビリオン「ピバレッジサービスセンター」を出展しています。「ピバレッジサービスセンター」では、自動販売機の仕組みを知り、商品をお客様へお届けする上での知恵や工夫を学び、美味しさと安心・安全を支える人々の想いを感じることができます。普段何気なく目にして街の風景である自動販売機に実際に触れ、運営体験を通して、「職業観」を育成し、子どもたちの毎日の新たな気づきに繋がることを願っています。



自動販売機の中を知る



自動販売機に商品を届ける

社会と響きあう 文化・社会貢献

被災地支援

熊本地震復興支援活動

サントリーホールディングス（株）は、平成28年（2016年）熊本地震の復興支援のため、「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」としてサントリーグループ一体となった復興支援活動の取り組みを開始しています。

4月の熊本地震発生直後にミネラルウォーター「サントリー天然水」約21万本を供出したほか、5月には義捐金1億円を拠出するなど、熊本県の復興・再生に向けた支援活動に実施しています。その後、2016年10月には3億円の追加支出を決定。「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」を立ち上げ、サントリー九州熊本工場を熊本県内に置く企業として同県の復興に貢献したいとの思いから、「熊本地域における地下水の持続可能性に貢献する活動」「文化・芸術・スポーツを通じた心と体の支援活動」を中心に継続して実施しています。



「熊本地域における地下水の持続可能性に貢献する活動」

サントリー熊本地下水みらいプロジェクト

「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」



冬水田んぼの復旧



復旧工事



田植えイベント



念願の収穫

「文化・芸術・スポーツを通じた心と体の支援活動」

スポーツ教室開催

サントリースポーツチームによるバレーボール教室やラグビー教室、野球教室を被災地で開催

参加者数

約 **1,100** 名



サントリーサンゴリアスによる
ラグビー教室



サントリーサンバースによる
バレー教室

「サントリードリームマッチ」ライブビューイング



ウィーン・フィルによる復興祈念公演開催

参加者数

約 **1,300** 名



佐渡裕氏率いるスーパーキッズオーケストラによる復興祈念公演開催

被災地の中学校・高校の吹奏楽部生が練習を重ね、最後にはサントリーホールで公演するプロジェクトを実施

参加者数

約 **1,200** 名



コミュニティ支援

九州熊本工場周辺の嘉島町・益城町・御船町を中心に、サントリーの資産を活用した支援活動を展開

サントリーフラワーズと協働でフラワーワークショップの開催

参加者数

約**200**名



九州熊本工場周辺3町の被災者の皆さまを工場ツアーに招待

参加者数

約**400**名



東日本大震災復興支援活動

サントリーグループは、東日本大震災からの復興に向けて、継続的な支援を展開しています。震災直後の緊急支援として100万本のミネラルウォーターと被災3県に対して3億円の義捐金を贈呈。さらに2011年に40億円、2012年に20億円、2013年に25億円、2014年に20億円の追加拠出を決め、合計108億円の規模で復興支援に取り組んでいます。

太陽のように暖かな光が被災地にさんさんとふりそそぐようにとの思いを込めて、「サントリー東北サンさんプロジェクト」を立ち上げ、「漁業」「子ども」「チャレンジド・スポーツ」「文化・スポーツ」の分野を中心に、支援活動を継続しています。

「漁業」の早期復旧のため、漁船や漁具、定置網などの取得を支援するとともに、「子どもたち」の健やかな成長を応援するため、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに水産高校生などへの奨学金をはじめ、安心して学び遊べる場所づくり(学童保育施設など)や子ども支援NPOへの助成などを行っています。また、笑顔と元気をお届けするために、「文化・スポーツ」を通じたさまざまな活動も展開しています。

そして、2014年からは、夢と希望をお届けしたいとの思いから、岩手県・宮城県・福島県を対象に、「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)」を応援しています。アスリート個人や団体の活動を資金面から支援する「チャレンジド・アスリート奨励金」、子どもたちを中心に競技やアスリートにふれあう機会を提供する「チャレンジド・スポーツ体験教室」、普及・強化や育成を支援する「チャレンジド・スポーツ育成サポート」を中心に、7年間にわたって、10億円の規模で展開していきます。



■支援実績

漁業の復興支援

各県に漁業復興のための寄付金贈呈

県を通じて漁業の早期復興を支援するため、宮城県に30億円、岩手県に25億円の寄付金を贈呈



漁船取得支援

漁業者の負担を軽減するため、宮城県・岩手県を通じて、漁船の取得費用の一部を負担し、遠洋マグロ用・イカ釣り用などの大型漁船から小型漁船まで約1万隻の復旧を支援

漁船取得支援数

約 **10,000** 隻



漁具・漁業関連施設復旧支援

宮城県・岩手県への漁業復興のための寄付金は、定置網・養殖施設などの復旧にも活用

漁具支援数

約 **1,100** 件

定置網支援数

約 **400** 件



未来を担う子どもたちの支援

水産高校奨学金

水産高校7校の被災した生徒を対象に2012年から5年間、返還義務のない奨学金を支給

奨学金受給生数(のべ人数)

約**3,000**名



福島子ども学び遊べる場所づくり支援

特に厳しい環境に置かれている福島の子子どもたちが安心して学び遊べるように、学童保育施設や指導員研修、園外保育などの支援を展開

学童保育施設建設数

5棟



園外保育など屋外活動参加者数

約**8,800**名



福島子ども支援NPO助成

避難生活が長期化している福島の子子どもたちをきめ細かく支援しているNPO団体への助成を3年間実施

助成団体数

57団体

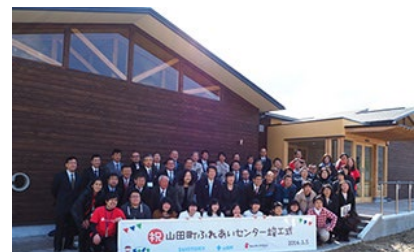


「石巻市子どもセンター」・「山田町ふれあいセンター」建設

子どもたちが企画・デザインした施設「石巻市子どもセンター」(宮城県)・「山田町ふれあいセンター」(岩手県)の建設費全額を支援

石巻市子どもセンター年間利用者数

約**30,000**名



TOMODACHIイニシアチブとの音楽を通じた協働プログラム

米国大使館・米日カウンシル-ジャパン主導のTOMODACHIイニシアチブと協働し、「TOMODACHIサントリー音楽奨学金」では米国の音楽大学に入学する被災地の学生を支援。「TOMODACHIサントリー福島未来ミュージックプログラム」では、福島県ふたば未来学園高校の吹奏楽部生を対象に、米国におけるニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団によるワークショップで学ぶ機会を提供



寄付額
約**100**万ドル

チャレンジド・スポーツ支援

チャレンジド・スポーツ体験教室

被災地の小中学校や競技施設で、チャレンジド・アスリートによる車いすバスケットボールを中心とした競技体験教室を開催



参加者数
約**4,000**名

チャレンジド・アスリート奨励金

個人・団体への助成を通じ、チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を支援

個人部門
のべ**198**名

団体部門
のべ**84**団体

2018年1月時点



チャレンジド・スポーツ育成サポート

チャレンジド・スポーツの普及および育成のため、公共施設の改修や競技用車いすなどの競技用具を寄贈

各県でのチャレンジド・スポーツ指導者育成のための車いすスポーツ導入教室を開催

競技用車いす
35台

STT用卓球台
5台

施設改修
3カ所



車いすスポーツ導入教室
5回開催

文化・スポーツを通じた支援

ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに、音楽活動への助成や被災地でのコンサートを展開

「こどもたちのためのコンサート」来場者数

約**9,600**名

ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞受賞活動

84団体

サントリー&日本工芸会「おもしろびじゅつ教室 in 東北」

重要無形文化財保持者（人間国宝）をはじめとした伝統工芸作家による出張授業を実施

「おもしろびじゅつ教室」参加者数

約**1,200**名

サントリー美術館 出張展覧会

仙台市と郡山市でサントリー美術館の所蔵品による日本美術の展覧会を開催

来場者数

約**32,000**名

みちのくウインド・オーケストラ

被災地の中学校・高校の吹奏楽部生が練習を重ね、最後にはサントリーホールで公演するプロジェクトを実施

参加者数

約**350**名

サントリー & 仙台フィル みんなのまちのコンサート

仙台を本拠に置く仙台フィルハーモニー管弦楽団と協働し、2016年より東北の被災地を回るコンサートを実施

参加者数

約**700**名



文化・スポーツイベントに被災地の方を招待

「サントリー 1万人の第九」などの文化イベントや「サントリードリームマッチ」・ラグビー国際試合などにご招待

文化イベント招待者数
約**9,400**名

スポーツイベント招待者数
約**21,400**名



スポーツ教室開催

サントリースポーツチームによるバレーボール教室やラグビー教室、野球教室を被災地で毎年開催

スポーツ教室参加者
約**5,300**名



災害被災地への支援

サントリーグループでは、国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や、飲料水の提供など、被災者および被災地に支援を行っています。

■主な義捐金の拠出

| 年 | 件名 | 寄付金額 | 寄付相手先 | ニュースリリース |
|-------|----------------------|---|--|------------------------------|
| 2010 | 2010ニュージーランド南島大地震 | 325万円 | Cristchurch earthquake appeal fund | |
| 2010 | 宮崎県における口蹄疫被害 | 1,000万円 | 宮崎県、社会福祉法人宮崎県共同募金会 | 宮崎県における口蹄疫被害に対する義捐金について |
| 2010 | チリ大地震 | 500万円 | チリ大使館 | チリ大地震による被害に対する義捐金について |
| 2010 | ハイチ大地震 | 1,000万円 | 日本赤十字社 | ハイチ大地震の被災地に対する義捐金について |
| 2011 | タイの洪水被害 | 約250万円 | タイ王国政府 | タイの洪水被害に対する支援について |
| 2011 | 2011ニュージーランド南島大地震 | 620万円 | ニュージーランド赤十字社 | ニュージーランド地震に対する義捐金について |
| 2011 | 豪州・クィーンズランド州における洪水被害 | 800万円 | クィーンズランド州 The Premier's Disaster Relief Appeal | 豪州・クィーンズランド州の洪水被害に対する義捐金について |
| 2011～ | 東日本大震災 | 2011年 43億円 2012年 20億円 2013年 25億円 2014年 20億円 (累計108億円) | 岩手県、宮城県、福島県、セーブザ・チルドレン・ジャパンほか | 東日本大震災に対する義捐金について |
| 2014 | 広島における土砂災害 | 100万円 | 中国新聞社会事業団 | |
| 2015 | ネパール大地震 | 300万円 | ネパール地震被災救済基金 | |
| 2016 | 熊本地震 | 2016年4月 1億円 2016年10月 3億円 | 熊本県 | 熊本県への義捐金リリース |
| 2017 | 九州北部豪雨災害 | 福岡県 (500万円) 大分県 (500万円) | 福岡県、大分県 | 九州北部豪雨災害被害に対する義捐金について |
| 2017 | 米国大型ハリケーンによる被害に対する支援 | 約1億1千万 (100万ドル) | アメリカ赤十字社 | 米国大型ハリケーンによる被害に対する支援について |
| 2017 | メキシコ地震による被害に対する支援 | 約2,200万円 (20万ドル) | メキシコ赤十字社 | メキシコ地震による被害に対する支援について |

災害時に飲料を無料提供

サントリーフーズ（株）では「緊急時飲料提供ベンダー（自動販売機）」を開発し、設置を進めています。普段は通常の自動販売機同様に飲料を販売し、災害発生などの緊急時には無料で飲料を提供。電源が落ちた場合でも、簡単に飲料を取り出せます。2011年3月の東日本大震災時にも、多くの方々に活用いただきました。行政施設や病院などを中心に設置を進めています。このタイプの自動販売機を、今後も積極的に投入していきます。



緊急時飲料提供ベンダー

社会と響きあう 文化・社会貢献

地域貢献

工場周辺地域との共生

サントリーグループの主要工場では、地域住民の皆様との対話や、工場内に造成した公園・遊歩道を開放するなど、地域交流の場を提供しています。新たに工場を建設する際には、第三者による環境影響評価を行い、周辺住民の皆様にご理解いただくとともに、生物多様性の保全や工場内の緑化など自然との共生に努めています。

■工場緑化の推進

サントリーグループの工場では、生物多様性にも配慮し、地域の環境と調和した緑化を進めており、緑化優良工場として各地で表彰を受けています。

緑化優良工場等表彰（主催：日本緑化センター）

| 表彰年 | 表彰工場 | 表彰名 |
|------|----------|-------------|
| 1987 | 利根川ビール工場 | 東京通商産業局長賞 |
| 1989 | 白州蒸溜所 | 内閣総理大臣賞 |
| 1993 | 梓の森工場 | 通商産業大臣賞 |
| 2002 | 山崎蒸溜所 | 経済産業大臣賞 |
| 2006 | 九州熊本工場 | 日本緑化センター会長賞 |
| 2008 | 高砂工場 | 日本緑化センター会長賞 |
| 2014 | 利根川ビール工場 | 経済産業大臣賞 |
| 2014 | 九州熊本工場 | 経済産業大臣賞 |
| 2014 | 榛名工場 | 日本緑化センター会長賞 |

その他の緑化関連表彰

| 表彰年 | 表彰工場 | 表彰名 | 主催 |
|------|--------------|----------------------------|---------|
| 1986 | 九州熊本工場 | 緑化優良工場九州経済産業局長表彰 | 九州経済産業局 |
| 1997 | 利根川ビール工場 | 全国植樹祭開催記念 環境緑化コンクール特別大賞 | 群馬県 |
| 2005 | 九州熊本工場 | くまもと景観賞・地域景観賞 | 熊本県 |
| 2011 | 天然水奥大山ブナの森工場 | 日本緑化学会賞（技術賞） | 日本緑化学会 |

■工場見学を通じてお客様と対話

美味しさや安全へのこだわり、自然環境への配慮など、商品を通じた取り組みを多くの方に知っていただくため、ビール工場・ウイスキー蒸溜所・ワイナリー・天然水工場などで、工場見学や特別セミナーを実施しています。製造工程や歴史をわかりやすくご説明するほか、試飲などをお楽しみいただけます。また、ビールづくりのこだわりや、ウイスキーの楽しみ方などを学べる特別セミナーも開催しており、全国で年間約79万名のお客様にご来場いただいています。



天然水工場での工場見学



ビール工場での特別セミナー開催

社会と響きあう 文化・社会貢献

従業員ボランティア

従業員のボランティア活動

サントリーグループでは「利益三分主義」に基づき、さまざまな社会貢献活動を行っていますが、グループ従業員一人ひとりもまた、社会との関係を持つことが大切だと考えています。“Growing for Good”へ向け誠実で信頼される人間として成長しつづけるため、ボランティア活動をはじめとした従業員の社会参加を積極的に支援しています。

支援制度としては、「ボランティア休暇制度」を設けており、さまざまな活動に参加しました。

ボランティア機会の提供としては、活動紹介・申し込みシステムである「ボランティアウェブ」(公益社団法人日本フィランソロピー協会提供)を導入しました。全国各地のボランティア活動が掲載されており、分野や活動日ごとに検索が可能となっています。また、今まで限られた拠点でしか開催できていなかった国際貢献ボランティア「みんなで布チョッキン」「絵本を届ける運動」のプログラムをNPOと協働でパッケージとして整え、ボランティアウェブ上に掲載、従業員自らが希望の場所で開催できる形を実現しました。



「ボランティアウェブ」のページ

ボランティア活動「邦寿会でのボランティア活動」 高齢者福祉施設での窓拭きや保育園の運動会のお手伝い

社会福祉法人「邦寿会」が運営する高齢者福祉施設や保育園では、サントリーグループの従業員に窓拭きや草取りなどの作業への参加を募るとともに、新入社員も研修の一環として、「どうみょうじ高殿苑」でのボランティア活動に参加しています。



「邦寿会」での清掃作業

ボランティア活動「熊本県益城町ジョギングフェア大会」 震災後再開した町のジョギング大会に運営ボランティアとして参加

熊本地震復興支援「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」の一環として、『第25回益城町「阿蘇くまもと空港・テクノ周辺」ジョギングフェア大会』に運営ボランティアとして参加しました。震災後はじめての町の大きなイベントで、ランナーとボランティア約2,000人が集まりました。サントリーからはグループ各社から19名が参加し、給水所でドリンクや果物を配布し、町の方々と共にランナーを応援しました。



運営ボランティアの様子

■全国の事業所で美化活動を実施

全国にあるサントリーグループの各事業所では、周辺の清掃をはじめ、自治体が主催するごみ拾いへの参加など、環境美化に取り組んでいます。2015年の「東京ベイ・クリーンアップ大作戦」（2003年から協力・協賛）には、従業員および家族も参加し、住民や近隣企業の方々とともに約80kgのごみを回収しました。



東京ベイ・クリーンアップ大作戦



武蔵野ビール工場の従業員・
家族による多摩川清掃

■グループ会社の取り組み

「P LOVE GREEN」— (株) プロントコーポレーション

2010年4月に「お客様の精神（こころ）と肉体（からだ）に安らぎと喜びを与え、明日への創造を生み出すJUNCTIONとなる」という基本理念と、プロントのブランドカラーである「Green」という原点を見つめ直し「P LOVE GREEN宣言」を発表し、人と自然にやさしい、また、ワクワクするプロントらしい活動を「P LOVE GREEN」と名づけ、メニューやグッズ、店内環境、エンターテインメントの提供や社会貢献活動にまで広がっています。

その1つの活動として、2010年度の東京都「緑の東京募金」への寄付に始まり、東日本大震災以降は被災地の緑化事業にも寄付し、2012年および2015年には、農林水産大臣感謝状をいただきました。加えて、東日本大震災で被災した防災林などの植樹活動を現地の子どもたちとともに実施しています。



植樹の様子

霧多布湿原ナショナルトラストを支援 — ハーゲンダッツ・ジャパン(株)

原料の牛乳の生産地である北海道根釧地区において、2007年から厚岸郡浜中町の霧多布湿原ナショナルトラストへの支援を行っています。霧多布湿原は国内では3番目に大きな湿原で、1993年にはラムサール条約にも登録されています。資金面の支援に加え、毎年当社従業員が地元の方々とともに、木道の補修をするなど湿原の景観保全のボランティア活動を行っています。このボランティア活動は2017年で11回目となり、引き続き毎年実施していく予定です。



木道補修風景 (2014年)

花を通して地域の活性化を支援 — サントリーフローズ(株)

「地域に花のある暮らし」を多くの方に体験していただくため、公園などに花苗を提供しています。2012年からは「赤い花で日本を元気に!」をスローガンに、全国各地の公園や公共施設などに花を植え、コミュニティの活性化にも役立てていただく活動「赤い花プロジェクト」を全国で展開。「サフィニア・レッド」の花苗を全国各地の団体へ寄贈しました。2015年からは活動の輪をさらに広げて「大きな花プロジェクト」として取り組んでいます。



「赤い花プロジェクト」の植栽

社会と響きあう 文化・社会貢献

チャレンジド・スポーツ支援

サントリーチャレンジド・スポーツプロジェクト

サントリーグループは、東日本大震災復興支援の一環として、2014年に「チャレンジド・スポーツ支援」を開始。2015年からは、復興支援の枠を超えて、アスリートたちに寄り添いながら普及から強化まで幅広く取り組んでいます。

■「PASSION FOR CHALLENGE -ともに夢に挑もう-」

障がいをものともせず、自らの限界に果敢に挑戦していくチャレンジド・アスリートたち。当社も創業以来、挑戦精神「やってみなはれ」のもと、さまざまな新分野を切り拓いてきました。そんなサントリーだからこそ、選手の熱意・挑戦に共感し、選手に寄り添って、その挑戦、無限大の可能性を応援していきたい、という思いから活動を展開しています。

1. オフィシャルパートナー

- ① 公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会 (2015年～)
- ② 一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟 (2015年～)
- ③ 車いすバスケットチーム「宮城MAX」「TEAM EARTH (福島)」「ラッセル岩手」「SCRATCH」(2015年～)



2. 体験教室

チャレンジド・スポーツの認知向上・普及のために、東北の小中学校や公共施設等で「宮城MAX」などを講師に迎え車いすバスケットボール体験教室を年間10回以上開催しています。

その他、ブラインドサッカー・ブラインドマラソン・チェアスキー体験・ボッチャなど幅広い競技の体験も実施しました。

参加者数：累計約4,000名
(2018年4月時点)



3. サントリーチャレンジド・アスリート奨励金

チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を目指し、岩手・宮城・福島県を対象に実施しています。

助成先：個人のべ198名・84団体に支給（総額約1億3千万円）。
(2018年4月時点)



4. 車いすスポーツ導入教室開催（対象：車いすスポーツ未経験者や支える方）

車いすスポーツの裾野拡大を目指し、パラリンピアン（アイススレッジホッケー）の上原大祐氏と、ドイツ障がい者スポーツ連盟公認リハビリテーションスポーツ指導員資格を取得した橋本大佑氏を講師に迎え、岩手・宮城・福島県でこれまでに5回開催しています。

5. 競技用具寄贈・競技施設改修

チャレンジド・スポーツの環境整備のため、岩手・宮城・福島県を対象に、競技用車いすなど競技用具の寄贈や宮城MAXの練習拠点の体育館を含む施設改修を実施しました。

競技用具寄贈数 63式、施設改修 3箇所



6. 大会協賛

車いすバスケの普及および競技環境整備のため、下記の大会に協賛、運営をサポート。より親しみを持っていただく取り組みなども実施しています。（2017年度実績）

- ① 内閣総理大臣杯争奪 日本車いすバスケットボール大会
スペシャルパートナーとして大会協賛、さまざまな施策を展開
 - ◆車いすバスケットボール体験ブース出展、サンプリング
車いすバスケの試合中の目線が疑似体験できるVR動画の体験コーナーを実施
 - ◆サントリー車いすバスケシュートコーナー開催
実際に車いすに乗ってシュート体験を行うコーナーを設置
 - ◆副賞贈呈
MVP・得点王・特別賞「サントリーやってみなはれスピリッツ賞」の選手にサントリー商品1年分
- ② 国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会
- ③ 国際車いすバスケットボール大会「World Challenge Cup」
- ④ 国際車いすバスケットボール大会「北九州チャンピオンズカップ」

7. 従業員参加・啓発

- ① 関東地方勤務のサントリーグループ社員対象（約3,600名）のソフトバレーボール大会にて、日本代表選手などによる車いすバスケ体験教室およびデモンストレーションを実施。弊社ラグビー部・バレーボール部も参加し、障がいの垣根を越えてスポーツの交流を行っています。（2015年～実施中）



- ② 大会観戦（観戦・応援参加者数 2017年 約360名）
ジャパンパラ陸上大会（2015）、国際車いすバスケットボール大会「北九州チャンピオンズカップ」（2015）、2015IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップ千葉（2015）、国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会（2016、2017）、車いすバスケットボール日本選手権大会（2016、2017）、国際車いすバスケットボール大会「World Challenge Cup」（2017）に社員観戦を案内



- ③ 大会ボランティア
車いすバスケットボール日本選手権大会（2016）、ジャパンパラウィルチェアラグビー大会（2016）や体験教室などに計15名が参加しました。



8. 車いすバスケットボール ルール映像制作

車いすバスケの認知向上のため、分かりやすく親しみやすいアニメーションによるルール映像を制作し、日本選手権などでも上映しました。

facebook公式ページにおける再生数・シェア数

再生回数：国内外で約15万回再生

シェア数：1,200件以上



9. 車いすバスケットボールの試合中の視点が体験できるVR動画制作

車いすバスケットボールを身近に、そして迫力・魅力をより感じてもらうため、選手視点で試合中の目線が擬似的に体験できるVR動画を当時の日本代表選手にも出演いただき、制作しました。

再生回数：SNS上を中心に、約10万回再生



10. サントリー HP内で連載企画「OUR PASSION」掲載

選手や競技の認知度向上・普及のため、「サントリーチャレンジド・スポーツプロジェクト」に関わっていただいているアスリートやスタッフの方々取材し、挑戦に懸ける想い（OUR PASSION）を掲載しています。朝日新聞デジタル編集部に協力いただいています。



11. チャレンジド・アスリート 谷真海（旧姓：佐藤真海）の活動支援

走り幅跳びでパラリンピック3大会に連続出場し、2016年からはパラトライアスロンに転向。また、2020東京大会招致スピーチや、復興支援を含む様々なCSR活動にも取り組んでいます。

「2017年ITU世界トライアスロングランドファイナル2017」（世界選手権）PTS-4クラスに出場し、日本人として初めて優勝を収めました。

